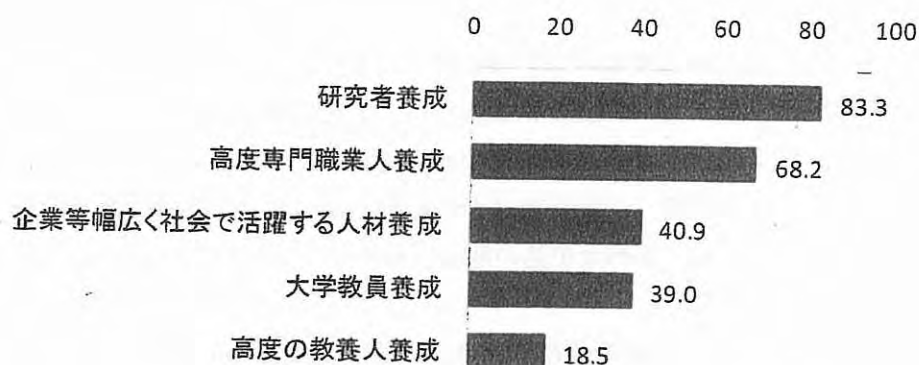


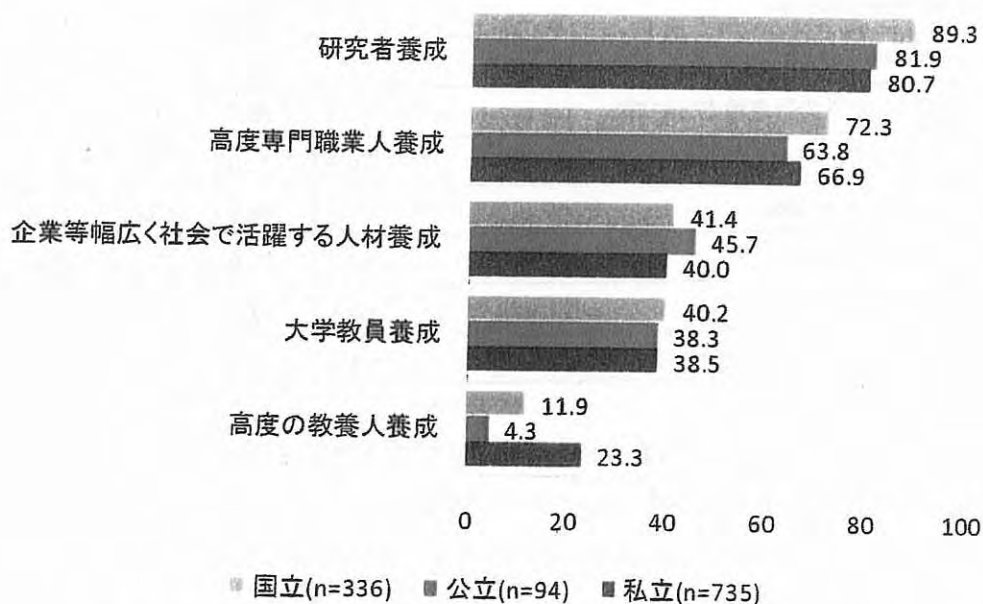
2.4 人材養成機能として重視すること

博士課程（後期）の教員として、専攻の人材養成機能で重視していることは、「研究者養成」が83%、「高度専門職業人養成」が68%という結果であった。



図Ⅲ-6 人材養成機能として重視すること(n=1165)

大学院の設置区分別の専攻の人材養成機能で重視していることについては、どの区分においてもほぼ同様の傾向を示している。



図Ⅲ-7 大学院の設置区分別専攻の人材養成機能で重視していること(%)

大学院の所在地別に専攻の人材養成機能で重視していることをみると、東京都では「研究者養成機能」および「高度の教養人育成」の回答割合が他の地域に比べて高い。逆に、中部地方ではこれらを重視する割合が他の地域に比べて低くなっている。また、四国地方では「研究者養成機能」の回答割合が他の地域より低く、九州・沖縄地方では「高度専門職業人養成」を重視する割合が他の地域よりも高くなっている。

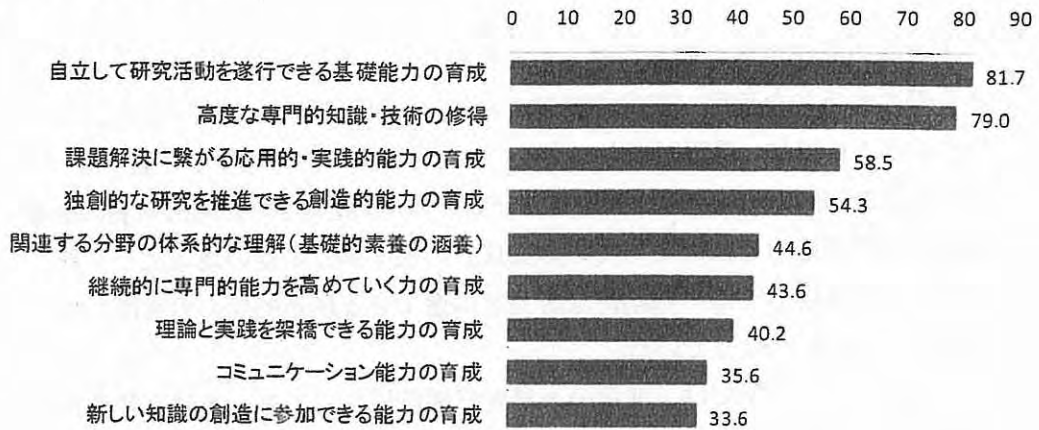
表Ⅲ-3 大学院の所在地別専攻の人材養成機能で重視していること(%)

	研究者養成	高度専門職業人養成	活躍する人材養成 企業等幅広く社会で	大学教員養成	高度の教養人養成
北海道(n=45)	82.2	71.1	28.9	42.2	13.3
東北地方(n=51)	86.3	72.5	41.2	41.2	15.7
東京都(n=243)	89.3	64.2	43.2	43.2	24.7
東京都以外の関東地方(n=166)	81.3	65.7	39.8	31.9	17.5
中部地方(n=141)	76.6	72.3	44.7	49.6	11.3
近畿地方(n=289)	85.1	66.4	40.8	37.4	18.7
中国地方(n=81)	80.2	67.9	43.2	35.8	17.3
四国地方(n=23)	65.2	73.9	39.1	26.1	26.1
九州・沖縄地方(n=121)	84.3	76.9	38.0	34.7	18.2

専攻分野別の特徴としては、工学系で「研究者養成」という回答割合がやや少なく、理学系で「高度専門職業人養成」の、また、人文科学系で「大学教員養成」の回答割合が他の分野よりやや多くなっている。

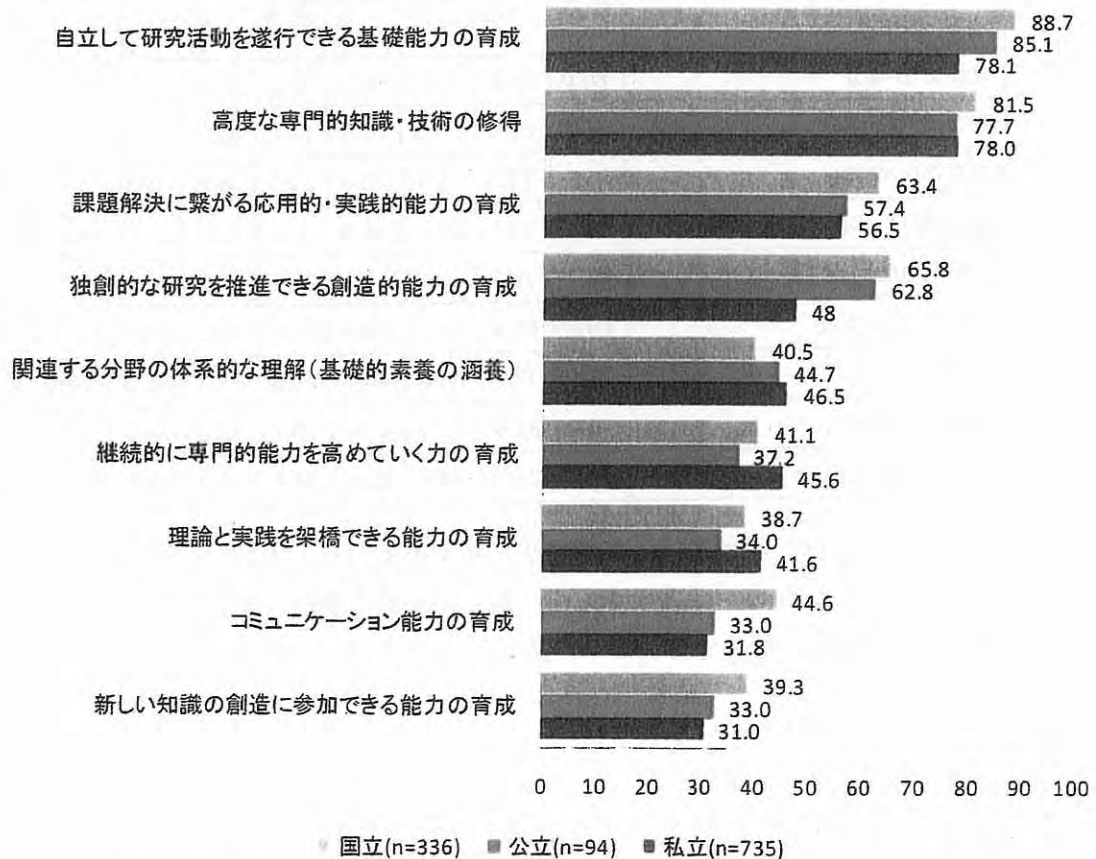
2.5 教育目標として重視すること

博士課程（後期）の教員として教育目標で重視することは、「自立して研究活動を遂行できる基礎能力の育成」が82%でトップであり、「高度な専門的知識・技術の修得」の79%がこれにつづいている。さらに、「課題解決に繋がる応用的・実践的能力の育成」が59%、「独創的な研究を推進できる創造的能力の育成」が54%となっており、ここまでが半数を超える回答割合になっている。



図Ⅲ- 8 教育目標として重視すること(n=1165)

大学院の設置区別に教育目標として重視していることをみると、国立大学では「新しい知識の創造に参加できる能力の育成」を重視する回答割合が他の区分よりも高い。また、私立大学では、「自立して研究活動を遂行できる基礎能力の育成」および「コミュニケーション能力の育成」を重視する回答割合が他の区分に比べて低い傾向がみられる。



図Ⅲ- 9 大学院の設置区別教育目標として重視していること(%)

大学院の所在地別の教育目標として重視していることについては、東京都では「関連する分野の体系的な理解（基礎的素養の涵養）」の回答割合が他の地域よりも高く、「課題解決に繋がる応用的・実践的能力の養成」の回答割合が他の地域より低くなっている。また、東京都以外の関東地方では「関連する分野の体系的な理解（基礎的素養の涵養）」および「継続的に専門的能力を高めていく力の育成」の回答割合が他の地域よりも低くなっている。さらに、中国地方では「独創的な研究を推進できる創造的能力の育成」の回答割合が他の地域に比べて低くなっている。

東京都にある大学では、前項の人材育成機能についても、本項の教育目標についても他の地域と少し異なる傾向を示していることがわかる。

表Ⅲ-4 大学院の所在地別教育目標として重視していること(%)

	自立して研究活動を遂行できる基礎能力の育成	高度な専門的知識・技術の修得	課題解決に繋がる応用的・実践的能力の育成	独創的な研究を推進できる創造的能力の育成	関連する分野の体系的な理解（基礎的素養の涵養）	継続的に専門的能力を高めていく力の育成	理論と実践を架橋できる能力の育成	コミュニケーション能力の育成	新しい知識の創造に参加できる能力の育成
北海道(n=45)	80.0	86.7	51.1	53.3	42.2	44.4	40	42.2	26.7
東北地方(n=51)	84.3	80.4	70.6	52.9	54.9	41.2	33.3	41.2	31.4
東京都(n=243)	82.7	77.8	51.4	59.3	52.7	46.5	43.6	34.6	35.4
東京都以外の関東地方(n=166)	83.1	75.3	54.2	48.2	36.1	34.3	37.3	33.1	31.3
中部地方(n=141)	85.1	78.7	69.5	61	39.7	48.2	34.0	32.6	36.9
近畿地方(n=289)	80.6	81.7	57.1	56.4	45.0	45.0	44.6	37.7	32.5
中国地方(n=81)	77.8	77.8	63.0	40.7	38.3	38.3	38.3	38.3	30.9
四国地方(n=23)	69.6	82.6	69.6	47.8	39.1	52.2	26.1	26.1	43.5
九州・沖縄地方(n=121)	84.3	79.3	62.8	52.9	48.8	46.3	41.3	35.5	35.5

専攻の分野別では、保健系で「課題解決に繋がる応用的・実践的能力の育成」、「独創的な研究を推進できる創造的能力の育成」、「新しい知識の創造に参加できる能力の育成」などの項目で回答割合が他の分野よりやや多い。